

非行少年と食

高橋 早希

- 1 はじめに
- 2 非行少年と食の現状
- 3 食が子どもに与える影響
- 4 更なる検討と困窮家庭の現状
- 5 子ども食堂・こどもごちめしについて
- 6 おわりに

1 はじめに

3年生から少年法を受講し、ゼミでは主に非行少年の処遇や SNS 犯罪、いじめ、少年の環境についての討論を行ってきた。しかし、私たちが一番身近である食事が、子供や非行少年とどのように関係しているかについては触れてこなかった。そこで、必要不可欠であるのにも関わらず、家庭によって様々である食が非行少年と直接関係があるのかどうかについて興味を持ったため非行少年と食というテーマを取り上げようとする。

本レポートでは、犯罪白書の調査結果や元保護司である方の言葉を元に非行少年への食事支援や対策について検討したい。

2 非行少年と食の現状

(1) 食事の頻度

まず、少年と非行少年の食事の頻度についての調査結果についてである。東京都が実施した調査によると、平日の食事の頻度を尋ねた項目の 16・17 歳の結果では、ほぼ毎日 3 食食べるの構成比が 86.1%となっている¹。一方、少年院在院者や保護観察処分少年は構成比が 32.8%、53.5%と一般の少年と比べるととても低い。他にも、ほぼ毎日 2 食食べるの構成比は一般少年が 12.5%、少年院在院者 41.9%、保護観察処分少年が 35.2%となっている。更にほぼ毎日 1 食食べるでは、一般少年 0.7%、少年院在院者 7.7%、保護観察処分少年 7.0%とされる。これより、一般少年と比べて構成比が高いという結果になった。このことから、一般少年と比較すると少年院在院者及び保護観察処分少年は一日 3 食の規則正しい食生活を送っている少年は

¹ 令和 5 年版 犯罪白書 第 7 編/第 5 章/第 2 節/2 /7-5-2-2 図
(<https://www.moj.go.jp/content/001410106.pdf>) 2025 年 1 月 15 日閲覧

少ないことが分かる。

(2) 家族との夕食の頻度

次に、少年と非行少年の家族との夕食の頻度についての調査結果である²。法務総合研究所が実施した調査研究において、全国の満 16 歳以上 22 歳以下の者に対し、家族と一緒に夕食を食べた頻度の結果では、ほぼ毎日が 58.0%である。一方、少年院在院者では週に数回の構成比が 30.9%と最も高く、まったくしていないも 15.4%と高いという結果である。保護観察処分少年においては、ほぼ毎日の構成比が 42.2%と最も高く、次に週に数回が 33.7%と高いという結果となっている。このことから、一般少年と比べ、非行少年は家族と一緒に夕食を取る機会が少ないことが分かる。

3 食が子どもに与える影響

2 で取り上げた 2 つの調査結果から、非行少年と食は関係があると考えられる。調査結果ではあくまで数値でしか分からず、想像することが少し難しいと感じた。そこで、「子どもの食と居場所はなぜ大切であるか」という新聞記事で自身の体験談から導かれた言葉を述べている記事を見て、食が子どもにどのくらいの影響を与えているのかを検討したい。

朝日新聞の 2024 年 8 月 2 日の記事によると、「子どもはおなかを満たされれば悪いことをしない³」という言葉がある。これは、中本忠子さん、通称ばっちゃんと呼ばれている元保護司の方が述べた言葉である。保護司になったばかりの頃に受け持った男子生徒が、おなかが空いているからシンナーで空腹を紛らわせているという事実からこの言葉が生まれたと言われている。中本さんは保護司の他に NPO 法人「食べて語ろう会」を運営し、広島市で 40 年以上に渡り、300 人を超える子供たちのお世話をしている。これまで薬物の再犯はあってもそれ以外の再犯はないとされている。この新聞記事から、非行少年と食は大いに関係があると考えられる。私は、食事は家族と一緒に食事をする楽しさやコミュニケーション能力を培う大切な時間であると感じた。また、子どもの食事を提供するの親であるため、シンナーで空腹を紛らわせてしまうのは少年の親に問題があると考えた。他にも、子どもの親は貧困であるのではないだろうか、食には非行少年の行動を変えるほどの力が本当にあるのだろうかについて検討する。

² 令和 5 年版 犯罪白書 第 7 編/第 5 章/第 2 節/7-5-2-3 図

(<https://www.moj.go.jp/content/001410106.pdf>) 2025 年 1 月 15 日閲覧

³ 子どもの食と居場所はなぜ大切なのか 井出留美の「食品ロスの処方箋」
朝日新聞 SDG s ACTION 2024-08-02

(<https://www.asahi.com/sdgs/article/15367905?msocid=268e60d00a4468ed199f6e6b0b7e6931>) 2025 年 1 月 15 日閲覧

4 更なる検討と困窮家庭の現状

(1) 非行少年の食事の質

同新聞記事によると、食事の質が人の精神状態に影響するという調査結果がある。それは、食生活の悪い生徒の7~9割は「いらいらする」「腹が立つ」「すぐにカッとする」傾向にあるということだ⁴。キレてしまう子どもたちに共通する食事の特徴として、ビタミン、ミネラル、食物繊維が不足していることが挙げられる。ビタミンやミネラルの少ない食事や欠食をしていると脳が栄養失調状態となり、気分がふさいだり、いらいらしたりするなど精神面への影響が出てくるとされている。広島県の鈴木教授によるとまずは食を満たしてあげることであるという。これは中本さんが長年続けてきたことであり、食事を提供するだけでなく、子どもたちが安心出来る居場所を提供している。このことから、食事には非行少年の行動を変えてしまうほどの影響があると感じた。

(2) 困窮家庭の現状

2024年6月には困窮家庭と夏休みに関する興味深い調査結果も報じられている。調査を実施した認定NPO法人キッズドアによると、子育てをしている困窮家庭の保護者の6割が、夏休みは「短いほうがいい」または「なくていい」と考えているという。それは、夏休みの間子どもが家にいると、昼食を用意しなければならなかったり、エアコンを使うので光熱費もかさんだりと家庭の負担が増えるためである⁵。

更には困窮家庭の約4割~5割が1ヶ月に一人1万円未満、1食110円程度の食費で生活している。これは新型コロナが流行したのも原因であると考えられる。厚生労働省も、生活意識の状況について「苦しい」の割合は児童のいる世帯は65.0%となっている⁶。これより、日本の貧困の問題は深刻であると分かる。コロナによって生活状況が悪化した家庭を含め、特に子どもがいる家庭においては生活保護の基準を上げるべきであると考えた。

⁴ 子どもの食と居場所はなぜ大切なのか 井出留美の「食品ロスの処方箋」

朝日新聞 SDG s ACTION 2024-08-02

(<https://www.asahi.com/sdgs/article/15367905?msocid=268e60d00a4468ed199f6e6b0b7e6931>) 2025年1月15日閲覧

⁵ 子どもの食と居場所はなぜ大切なのか 井出留美の「食品ロスの処方箋」

朝日新聞 SDG s ACTION 2024-08-02 (出典：認定NPO法人キッズドア図)

(<https://www.asahi.com/sdgs/article/15367905?msocid=268e60d00a4468ed199f6e6b0b7e6931>) 2025年1月15日閲覧

⁶ 厚生労働省 「2023(令和5)年国民生活基礎調査の概況」

(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa23/dl/10.pdf>) 2025年1月15日閲覧

5 子ども食堂・こどもごちめしについて

(1) 子ども食堂

子ども食堂とは、子どもやその保護者及び地域住民に対し、無料または安価で栄養のある食事、温かな団欒を提供するための日本の社会活動である。2012年頃より大田区で誕生し、テレビやマスメディアで多く報じられたことで孤食の解決、子どもと大人たちの繋がり、地域のコミュニティの連携の有効な手段として日本各地で設置されている。認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえによると、昨年度より1734箇所増え、10866箇所もある⁷。

(2) こどもごちめし

こどもごちめしとは、企業、団体や個人の方々の温かいご支援で成立する活動である。子ども食堂はボランティアのことが多く、資金面や運用面から毎日の食事を提供することは難しいが、こどもごちめしは地域の飲食店をこども食堂として利用する仕組みとなっている⁸。会員登録した子どもたちは、お食事チケットをお店に提示することで、無料で食事をすることができるため、周りの目を気にせずに利用できるのも特徴である。子どもたちや子育て家庭だけでなく、利用が増えるなど飲食店にもメリットがある。また、利用すると支援企業が表示され、感想やメッセージを書くと、匿名で支援企業や寄付をした人に届けてくれる。そのため、感謝の気持ちが見えて支援者も嬉しいという、「三方よし」を実現する仕組みとされている。SNSの時代であるからこそその取り組みだと感じ、協力する企業が増えていくとより良くなると考える。

6 おわりに

本レポートでは、非行少年と食が直接関係しているのかについて実際の調査結果、非行少年と長年関わってきた方など、様々な視点から検討した。その結果、非行少年と食は直接関係があり、誰かと一緒に食事を取ることが重要である。家族と食事を取ることが難しい子どもたちのために日本の食事支援サービスは充実していることが分かった。しかし、私は、こどもごちめしという制度は無論、子ども食堂が全国で10000箇所もあることも知らなかった。今後の課題としてこのような食事支援サービスについて広めていくことが大切であると考える。実際に東京都福祉局の調査結果でも食事支援に関するサービスについては

⁷ むすびえ 「2024年度こども食堂全国箇所数調査」

(<https://musubie.org/news/10825/>) 2025年1月15日閲覧

⁸ 「“すべての子ども”に“毎日”温かいご飯を！ 次世代こども食堂「こどもごちめし」とは」2024-03-28 (<https://fqkids.jp/28902/>) 2025年1月15日閲覧

知らないから利用していないという割合がとても高かった⁹。以上の調査結果から、まずは子どもの食事をしっかりとり、心と体を満たしてあげることが大切である。そして、食事支援制度について広めていく、認知度を上げることが必要である。この二つの課題を解決することが出来たら、結果的に非行少年が減少するのではないだろうか。

⁹東京都福祉局「東京都福祉保健基礎調査「東京の子供と家庭」の結果」
(<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/fukushi/r4gaoyo>)

2025年1月15日閲覧